令和２年～３年度　伊万里市立立花小学校　校内研究計画

１　研究教科…外国語科・外国語活動

２　研究主題

英語を使って他者と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けた児童の育成
～指導に生かす評価の在り方の研究を通して～

３　主題設定の理由

1992年に大阪の２校が研究開発学校としての指定を受けたことからスタートした小学校における英語教育は、その後、総合的な学習の時間に行う英語活動として全国の小学校で広がりが見られるようになった。そして、2008年度に公示された小学校学習指導要領により、５・６年生において週に１時間の外国語活動が必修となり、ALT や外部講師のサポートを受けながら、基本的に担任が中心となって授業を進めていくことになった。

外国語活動に関する文部科学省の調査では、小学生の７割が「外国語活動が好き」、中学生の８割が「小学校の外国語活動(簡単な英会話)が役に立った」と回答している。また、中学校教員は「外国語活動導入前に比べて、生徒の英語を聞く力・話す力が向上した」と肯定的に評価している。

一方、課題としては、「音声中心で学んだことが、中学校の段階での音声から文字への学習に円滑に接続されていないこと」、「日本語と英語の音声の違いや英語の発音と綴りの関係、文構造の学習に課題があること」、「高学年は、児童の抽象的な思考力が高まる段階であり、より体系的な学習が求められること」などが指摘されている。

このようなことから2017年３月に公示された新学習指導要領では、児童の発達段階を考慮して、高学年で年間70時間の教科としての外国語科が、また、中学年では年間35時間の外国語活動の授業が必修となった。具体的には、中学年では、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成することが求められる。また、高学年では、外国語による、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することが求められる。さらに、言語活動の領域として、「話すこと」が「話すこと[やり取り]」と「話すこと[発表]」に分けられたことも大きな特徴である。

また、学習評価についても大きな変化が見られる。2019年３月29日に文科省から出された「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)」では、各教科等の目標及び内容を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の３つの柱で再整理した新学習指導要領の下での指導と評価の一体化を推進する観点から、観点別学習状況の評価の観点についても、これらの資質・能力に関わる「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の３観点に整理して示された。これまでの評価の観点である、「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」、「言語や文化への気付き」、「音声や表現への慣れ親しみ」と大きく変わるという点で、学習評価の在り方や「指導と評価の一体化」についても研究と実践を深めていく必要がある。

2018年度、2019年度の２年間は、新教育課程への移行期間として、文部科学省から *Hi, friends!* や *We Can!* が配布され、それらに準拠したデジタル教材を活用しながら授業が進められてきた。同時に、「教師の働き方改革」のための施策として、専科教員制度も導入され、本校では、移行期間２年目の2019年度は、５・６年生の外国語科の授業を専科教員がすべて担当するという指導形態で行ってきた。そこで、新教育課程が完全実施となる2020年度からは、本校では、３・４年生で *Let's Try!*

を使い、５・６年生では *New Horizon Elementary English Course*(東京書籍・以下 *New Horizon* とする)を使って授業を行うこととした。

また、2020年度は、本校に専科教員は配置されるものの、５・６年生６学級のうち３学級を担当する時数だけ配当されたので、５・６年生の３学級及び３・４年生は、担任が中心となって ALT との TT(Team Teaching)で授業を行うこととなる。

そこで、本研究では、昨年度までの本校児童の外国語活動経験を踏まえ、*Let's Try!* 及び *New Horizon* を活用した年間指導計画を作成し、担任または専科教員が中心となって授業実践を重ねるとともに、指導に生かす学習評価の在り方についても、理論と実践の両面から研究を進めていくこととした。コミュニケーションの必然性のある言語活動の設定や指導に生かす評価を取り入れた授業実践を行うことで、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲と態度を身に付けた児童を育成することを目指して本研究主題を設定した。

３　研究の内容と方法

(1)　小学校外国語科及び外国語活動並びに新しい評価に関する理論研究

- 先行研究、専門書などの文献により外国語活動及び外国語科の授業の在り方並びに新しい評価の考え方に関しての理論研究を行う。
- 講師を招聘し、外国語活動及び外国語科の授業の在り方並びに新しい評価の考え方に関する理論研修を行う。特に、バックワードデザインによる単元計画、言語活動の充実、指導に生かす評価の在り方などに関する研修を実施する。

(2)　外国語科及び外国語活動に関する授業実践と環境整備

- 学年に応じた活動例や授業で使える教材などを作成する。
- グループ研究会または全体研究会による研究授業と事後の授業研究会を通して、授業や活動の在り方に関する実践研究を行う。
- 外国語活動への意欲をかき立てる教室環境や掲示物を整備する。
- 外国語活動の理念や指導方法について、学校だよりや英語通信を通して保護者に周知する。
- 講師を招聘し、授業に対する指導助言を得る。

(3)　研究のまとめ

- アンケートなどを通して児童の変容や教師・保護者の意識について考察する。
- 成果と課題を整理し、研究紀要にまとめて公開する。

４　目指す児童像

(1)　３・４年生で「聞くこと」、「話すこと」などの言語活動に慣れ、５・６年生で初歩的な「読むこと」、「書くこと」を加えた４技能５領域の習得への移行が抵抗なくできる。

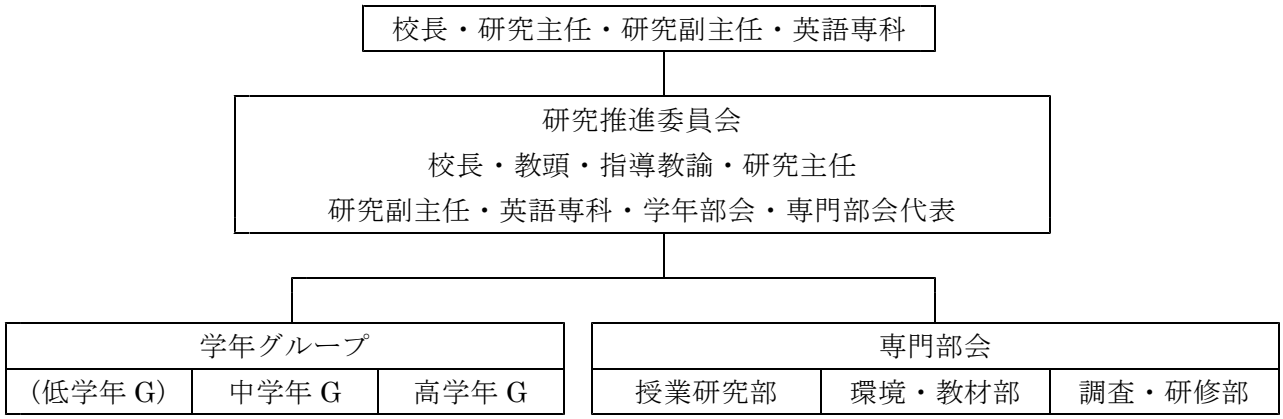
(2)　３・４年生でコミュニケーション能力の素地、５・６年生でコミュニケーション能力の基礎が身に付くような段階的な指導を行うことで、英語を使って他者と積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲と態度が身に付く。

(3)　新たに出会った表現においても、指導者(担任、専科教員、JTE、ALT)が発する英語とジェスチャー等を頼りに、教師が何を話しているか文脈を推測する力が身に付き、英語に限らず日本語での様々なコミュニケーションにおいても他者の発話の真意を推し量る力とコミュニケーションへの積極性が芽生えてくる。

(4)　中学校での英語学習に期待や希望を持ち、生涯に渡って英語を学習しようとする意欲が芽生え、異言語コミュニケーションを図ろうとする態度の基盤ができる。

５　研究組織

(1)　研究組織図



(2)　研究推進委員会

ア　研究の方向性を話し合い、今後の研究推進計画を策定する。

イ　メンバー…校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、研究主任、研究副主任、学年部会から１名ずつ、各専門部会から１名ずつ(学年部会代表と専門部会代表は兼ねることもできる。)

(3)　学年グループ

ア　中学年グループ… *Let's Try!１・２*を活用した授業の在り方に関する研究

イ　高学年グループ… *New Horizon Elementary ５・６*を活用した授業の在り方に関する研究

ウ　低学年担任、特別支援担当及び級外職員は中学年グループ又は高学年グループに分かれて所属する。ただし、必要に応じて低学年グループを編成し、１・２年生の英語活動に関する計画と実践を行う。

(4)　専門部会

ア　授業研究部…授業の実践に関する取り組み

- *Let's Try!*及び *New Horizon Elementary* を活用した活動のアレンジ
- 年間カリキュラムの策定
- 振り返りカードの検討
- 評価の在り方に関する研究　　など

イ　環境・教材部…環境や教材整備に関する取り組み、主に児童に関わること

- 掲示物の作成計画
- 絵カードの整理
- 教室環境開発
- 教材の整理と保管　　など

ウ　調査・研修部…調査や職員研修に関する取り組み、主に職員や保護者に関わること

- アンケートの作成とデータ処理(児童・保護者・教師等)
- 外国語活動だよりやホームページによる情報発信
- 参考書籍、参考ウェブページ等の発掘と紹介
- 英語表現や活動に関する教師研修の計画　　など

６　研究計画

日　　時	内　　容
2020年４月３日(金)	第１回研究推進委員会…研究の概要、研究組織等確認
４月９日(木)	英語専科加配担当者説明会(教育センター)　校長、英語専科参加
４月10日(金)	研究指定校連絡協議会(教育センター)　校長、研究主任参加
４月	第１回校内研 ・　研究組織づくり(授業研究部、環境・教材整備部、統計処理部) ・　研究授業の日程等の検討
４月	令和２年度英語指導員等活用研究事業実施計画書作成・提出
夏期休業	講師招聘による理論研究 ・　講師候補…長崎大学教育学部教授　中村　典生先生

７　2018年度外国語活動年間指導計画

(1)　2018年度の各学年の年間授業時数及び使用教材に関する基本的な考え方

ア　１・２年生

・　教育課程外の位置付けとして、毎月１単位時間(年間11単位時間)の授業時数を設定する。

・　特定のテキスト等は使用せず、取り扱う英語表現の絵カード、歌のＣＤなどを教材として利用する。

・　「数」、「色」、「動物」など児童の身近にある英語表現をベースに授業を行う「トピックシラバス」の考え方で年間計画を策定する。

・　歌やゲームを通して、それぞれのトピックにある英単語の英語らしい音に慣れさせるようにする。また、教師とのやり取りを通して、英語によるコミュニケーションの楽しさを味わわせるような年間計画を策定する。

・　１・２年生で同じような絵カードを準備するために、毎月のトピックは、基本的に１年生と２年生で同じとし、２年生の活動のレベルを若干上げるような指導計画を策定する。

イ　３年生

・　年間35単位時間の授業時数を設定する。

・　教材として、*Let's Try! 1*を使用する。

・　文部科学省が示した*Let's Try! 1*を活用した年間指導計画例を基本とする。

ウ　４年生

・　先行実施として、年間35単位時間の授業時数を設定する。

・　教材として*Let's Try! 2*を使用する。

・　文部科学省が示した*Let's Try! 2*活用した年間計画例を基本とする。

エ　５年生

・　年間70単位時間の授業時数を設定する。

・　教材として*New Horizon Elementary English Course 5*を使用する。

オ　６年生

・　年間70単位時間の授業時数を設定する。

・　教材として*New Horizon Elementary English Course 6*を使用する。